

性善説/性悪説の考え方における説得の効果に関する研究

1250418 岡田 崇史

指導教員 日道俊之

研究背景

性善説・性悪説はそれぞれ人の生まれつきの性質について善、あるいは悪とする道徳的な思想である。向井・松木(2022)では漫画の違法ダウンロードをやめるように説得する研究で、説得内容、説得者、被説得者の3つの要因から道徳的な信念におけるメッセージの提示による説得の効果を明らかにしている。二項対立の命題である性善説・性悪説においてはそのようなメッセージによる説得の効果とその要因について検討はまだされていないため、そこに研究の余地がある。

研究目的

性善説・性悪説の両思想における説得の効果を明らかにすることが目的であった。

調査・分析方法

調査では、説得の前後に参加者の人全般に対するとらえ方が性善説・性悪説のどちらに近いものであるかを自己評価する質問を設けた。説得ではシナリオを参加者に提示し、シナリオの説得する性善説・性悪説の方向による善・悪の2条件と、説得内容要因としてシナリオが事例情報と統計情報のどちらに基づいたものであるかによって、それぞれ事例・統計条件の2条件を設けた。被影響性・批判的思考態度の質問項目を測定し、説得の効果との相関を分析した。

分析結果

説得内容要因について、条件による事例・統計、善悪と参加者内要因の説得の前後の効果で3要因分散分析を行った。その結果、4つのシナリオの条件のうち、善の方向へ統計情報による説得をするシナリオにのみ説得の効果は有意だった。また被影響性・批判的思考態度のどちらにおいても、説得の効果との相関はみられなかった。

考察・結論

性善説・性悪説における説得は、部分的に効果がみられることが示された。また説得に用いるシナリオは、その情報が事例を基にした情報ではなく統計情報である場合に効果が表れ、被説得者が持つ要因は結果に影響しなかった。本研究の限界として作成したシナリオのうち、事例・善条件の文章の内容にある人物の行動が参加者の印象を損ね、本研究で想定した説得内容要因以外の影響を結果に与えた可能性があることが挙げられる。今後はシナリオ文章の内容等、説得の要因について検討する余地がある。